

社会政策学会 *Newsletter*

◇学会本部 東京大学大学院人文社会系研究科 武川正吾 気付 URL <http://oohara.mt.tama.hosei.ac.jp/sssp/>
 Tel:03-5841-3876, Fax:03-5841-3876 E-mail:sssp2006@hotmail.co.jp
 ◇編集・発行 武川正吾(代表幹事) 所道彦(ニューズレター担当幹事)
 ◇事務センター 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-7-2 大橋ビル (株)ワールドプランニング
 Tel:03-3431-3715 Fax:03-3431-3325 E-mail:world@med.email.ne.jp

<目次>

1. 社会政策学会第113回大会プログラム
2. 第114回大会開催のお知らせ
3. 社会政策学会2005年度決算報告
4. 社会政策学会2006年度予算
5. 幹事会報告
6. 承認された新入会員

1. 社会政策学会第113回大会プログラム

第1日 10月21日(土)プログラム

9:45~11:45 書評分科会、テーマ別分科会、自由論題

<書評分科会・第1 現代の賃金問題> 【2階 201 教室】
座長:猿田正機(中京大学)

1. 遠藤公嗣『賃金の決め方』ミネルヴァ書房、2005年。
岩佐卓也(神戸大学)
2. 森ます美『日本の性差別賃金』有斐閣、2005年。
清山 玲(茨城大学)
3. 小越洋之助『終身雇用と年功賃金の転換』ミネルヴァ書房、2006年
杉山 直(中京大学非常勤講師)

<書評分科会・第2 社会福祉の歴史> 【2階 203 教室】
座長:玉井金五(大阪市立大学)

1. 谷沢弘毅『近代日本の所得分布と家族経済』日本図書センター、2004年。
千本暁子(阪南大学)
2. 菅沼 隆『被占領期社会福祉分析』ミネルヴァ書房、2005年。
六波羅詩朗(国際医療福祉大学)
3. 北場 勉『戦後「措置制度」の成立と変容』法律文化社、2005年。
小笠原浩一(東北福祉大学)

<テーマ別分科会・第1(労働組合部会)> 【4階 401 教室】
「規制緩和」のなかの労働組合

座長 :早川征一郎(法政大学)
コーディネーター:兵頭淳史(専修大学)

1. 「建設産業における規制緩和と労働組合」
浅見和彦(専修大学)

2. 「行政サービスの民間開放と公務員労組の対応——東京・H労組を事例に」

武居秀樹(都留文科大学)

<テーマ別分科会・第2> 【1階 101 教室】

貧困・低所得層の自立支援

座長・コーディネーター:岡部 卓(首都大学東京)

1. 「生活保護における相談援助の質の標準化:現状および質評価の課題」

森川美絵(国立保健医療科学院)

2. 「母子世帯と自立支援」

丹波史紀(福島大学)

3. 「生活保護における就労支援の検証」

布川日佐史(静岡大学)

<自由論題・第1 労働経済> 【2階 205 教室】

座長:松尾孝一(青山学院大学)

1. 「ポルダー・モデルの構造について」

久保隆光(明治大学)

2. 「転職経路と不平等に関する実証分析」

森山智彦(同志社大学大学院生)

3. 「韓国における公共勤労事業の展開過程」

鄭 在哲(早稲田大学大学院生)

<自由論題・第2 年金> 【3階 301 教室】

座長:森 詩恵(大阪経済大学)

1. 「基礎年金制度の類型と決定要因」

鎮目真人(同志社女子大学)

2. 「障害年金改革に関する論点——アメリカ、スウェーデンとの比較を手がかりに」

百瀬 優(早稲田大学)

3. 「アメリカ『オーナーシップ社会』の歴史的位罫——年金『受給』から『所有』への転換」

吉田健三(松山大学)

13:15~15:15 テーマ別分科会、自由論題

<テーマ別分科会・第3(秋季大会企画委員会)> 【1階 101 教室】 (13:15~17:30)

日本労使関係のいま

座長: 石田光男(同志社大学)

コーディネーター:阿部 誠(大分大学)・富田義典(佐賀大)

学)

1. 「労働政治の構造変化と政策制度要求運動——政治面からみた労使関係の変容」

五十嵐仁(法政大学)

2. 「日本の労使関係と法」

田端博邦(元東京大学)

3. 「日本の労使関係の特質と現状」

富田義典(佐賀大学)

<テーマ別分科会・第4> 【2階 201 教室】

母子世帯政策の現状と課題

座長: 所道彦(大阪市立大学)

コーディネーター: 阿部 彩(国立社会保障・人口問題研究所)

1. 「母子世帯になってからの期間と生活水準」

阿部 彩(国立社会保障・人口問題研究所)

田宮遊子(神戸学院大学)

藤原千紗(岩手大学)

2. 「母子世帯の母親の就労支援——政策と結果」

田宮遊子(神戸学院大学)

<テーマ別分科会・第5(産業労働部会)> 【2階 203 教室】

米韓自動車産業の労使関係

座長・コーディネーター: 上井喜彦(埼玉大学)

1. 「米国自動車組立企業の労使協調がもたらす労使関係枠組みの変化とその矛盾」

山崎 憲(日本労働政策研究・研修機構)

2. 「韓国自動車産業の労使関係

——H自動車における『昼夜連続二交代勤務制度』と『月給制』を中心に」

金 良泰(明治大学)

<自由論題・第3 生活・家族> 【3階 301 教室】

座長: 三山雅子(同志社大学)

1. 「中国における農民工の『貧困』問題——労働・生活実態の総合的分析」

劉 綺莉(金沢大学大学院生)

2. 「デンマーク・モデルと就業女性——出産から復職を中心に」

熊倉瑞恵(日本女子大学大学院生)

3. 「ワーク・ライフ・バランスに関する考察——社会的活動への参加を中心に」

鈴木紀子(横浜国立大学大学院生)

<自由論題・第4 福祉国家> 【4階 401 教室】

座長: 平地一郎(佐賀大学)

1. 「日本における福祉国家研究の特質——加藤榮一の福祉国家論の場合」

岡本英男(東京経済大学)

2. 「福祉改革政治の分析枠組みの検討——経路依存と経路形成」

西岡 晋(早稲田大学大学院生)

3. 「緑の福祉国家の形成と展開——フィンランドの事例研究から」

高橋睦子(吉備国際大学)

15:30~17:30 テーマ別分科会、自由論題

<テーマ別分科会・第3 日本労使関係のいま(続き)> 【1階 101 教室】

<テーマ別分科会・第6(社会保障部会)> 【2階 201 教室】
「障害者自立支援法」の内容と意義(制定経緯・構成・直接的影響と社会保障構造改革的な意義)

座長・コーディネーター: 相澤興一(高崎健康福祉大学)

1. 「『障害者自立支援法』立法の意義」

相澤興一(高崎健康福祉大学)

2. 「障害者自立支援法における応益負担の問題点」

鈴木 勉(佛教大学)

3. 「『自立支援医療』の問題——障害者自立支援法が障害者医療に与えた影響」

荻原康一(中央大学大学院生)

<テーマ別分科会・第7> 【2階 203 教室】

アジア発展途上国の社会保障——カンボジアとネパール

座長: 上村泰裕(法政大学)

コーディネーター: 埋橋孝文(同志社大学)

1. 「カンボジアの社会保障制度施行の遅延」

漆原克文(川崎医療福祉大学)

2. 「ネパールの社会保障におけるプロビデント・ファンド

——シンガポールとマレーシアの対比において」

ガン・シヤム・ゴータム(大阪産業大学大学院生)

<自由論題・第5 ジェンダー> 【3階 301 教室】

座長: 居神 浩(神戸国際大学)

1. 「女性のキャリア・パス——事務系職種に就く登録型派遣労働者の事例から」

水野有香(大阪市立大学大学院生)

2. 「家族主義的福祉レジームにおける『脱家族化』概念

——イタリアにおけるケア労働の事例から」

宮崎理枝(市立大月短期大学)

3. 「生活協同組合の正規職員とパートの賃金格差」

山縣宏寿(明治大学)

<自由論題・第6 社会保障・福祉> 【4階 401 教室】

座長: 大西秀典(尾道大学)

1. 「北海道におけるウェルフェアミックスの可能性」

黒沼清一(佛教大学大学院修士課程修了)

2. 「ベーシックインカムとベーシックケイパビリティ」

村上慎二(立命館大学大学院生)

3. 「フランスにおける医療保険と病院との関係」

松本由美(早稲田大学大学院生)

18:00~20:00 懇親会 【生協食堂】

第2日 10月22日(日)プログラム

■共通論題■【2階 202 教室】

東アジアの経済発展と社会政策——差異と共通性

座長:田多英範(流通経済大学)
沈 潔(浦和大学)

9:30~12:00

報告1:「東アジアの経済発展と労働・生活の質——歴史的展望」

杉原 薫(京都大学)

報告2:「東アジアの社会政策を考える視点」

大沢真理(東京大学)

報告3:「労使関係の日韓比較——戦後システムの形成と変化を中心に」

禹 宗杓(埼玉大学)

13:20~14:30

報告4:「東アジアの社会保障比較——公的年金制度の生成・発展・改革」

朴 光駿(佛敎大学)

コメント: 上村泰裕(法政大学)

14:45~16:15

総括討論

お知らせ

<書評分科会・第1 現代の賃金問題>の報告者の一部変更について>

<書評分科会・第1 現代の賃金問題>の報告者について、連絡上のミスがあったため、次の通り変更します。ご迷惑をおかけした方々にお詫びいたします。

3. 小越洋之助『終身雇用と年功賃金の転換』ミネルヴァ書房、2006年。報告者 杉山 直(中京大学非常勤講師)

(前秋季大会企画委員長 阿部 誠)

2. 第114回大会のお知らせ

第114回春季大会は、2007年5月19日(土)20日(日)に、東京大学(本郷)にて開催されます。共通論題企画のキーワードは「子育て」です。報告者は、本田由紀氏(非会員)、脇坂明会員、阿部彩会員、白波瀬佐和子会員の4名を予定しています(順不同)。また自由論題とテーマ別分科会の報

告については、秋季大会(大分大学)終了後より募集を始める予定です。

応募の締め切り日は1月中旬の予定です。応募予定の会員は心づもりをお願いします。詳しくはホームページに掲載しますので、ご覧ください。(文責 遠藤公嗣)

3. 社会政策学会2005年度決算報告

社会政策学会 2005年度 決算書

自 2005年4月1日
至 2006年3月31日

【収入の部】

(単位:円)

項目	①'05年度予算	②'05年度決算	差額(②-①)	備考
会費収入	8,971,200	9,757,000	785,800	会費納入状況 91.1%
大会参加費	1,514,500	1,605,000	90,500	春¥959,500, 秋¥645,500
学会誌刊行助成金	0	0	0	
学会誌還元金	766,500	785,003	18,503	
雑収入	200,000	272,474	72,474	広告費, 利子収入を含む
当期収入合計	11,452,200	12,419,477	967,277	
繰入金	7,102,968	7,102,968	0	
収入合計	18,555,168	19,522,445	967,277	

【支出の部】

項目	①'05 年度予算	②'05 年度決算	差額(①-②)	備考
大会開催費	2,100,000	2,021,983	78,017	
春季大会	1,000,000	1,000,000	0	
秋季大会	1,000,000	1,000,000	0	
企画委員会活動費等	100,000	21,983	78,017	
旅費	600,000	500,620	99,380	
部会活動費	200,000	188,051	11,949	
学会誌発行費	3,480,000	3,960,078	△ 480,078	
学会誌代金	3,300,000	3,693,272	△ 393,272	
編集委員会活動費	180,000	266,806	△ 86,806	
選挙関連費	300,000	313,890	△ 13,890	
学会賞関係費	300,000	246,735	53,265	
記念品代等	80,000	54,475	25,525	
審査員交通費等	220,000	192,260	27,740	
業績リスト作成費	200,000	200,000	0	NLに同封
国際交流関連費	200,000	90,000	110,000	
学会ホームページ関連費	200,000	174,000	26,000	
名簿関連費	0	0	0	
名簿作成費	0	0	0	
名簿発送費	0	0	0	
内外諸学会分担金	100,000	35,000	65,000	日本経済学会連合
本部経費	2,148,368	2,123,313	25,055	
幹事会費	40,000	22,660	17,340	
ニュースレター関連費	650,000	652,170	△ 2,170	
ニュースレター制作費	300,000	268,800	31,200	
ニュースレター発送費	350,000	383,370	△ 33,370	業績リスト発送費含む
学会事務委託費	1,008,368	1,104,757	△ 96,389	
その他事務経費	450,000	343,726	106,274	
学会活動推進基金	1,000,000	402,109	597,891	
予備費	200,000	0	200,000	
当期支出合計	11,028,368	10,255,779	772,589	
繰越金	7,526,800	9,266,666	1,739,866	
合計	18,555,168	19,522,445	967,277	

注) 2006年3月31日現在 会員数 1,109名 (名誉会員 29, 一般会員 923, 院生会員 157)

資産	2006年3月31日現在 (円)
銀行口座	9,266,666
郵便振替口座	.
現金	0
合計	9,266,666

上記のとおり相違ありません

2006年5月9日 代表幹事 玉井金五

会計監査の結果, 上記のとおり相違ありません

2006年5月9日 会計監査 伊藤セツ

4. 社会政策学会 2006 年度予算

社会政策学会2006年度予算

2006年6月3日総会提出

自 2006年4月1日

至 2007年3月31日

【収入の部】

(単位:円)

項目	2006年度予算額	前年度予算額	対前年度増減額	備考
会費収入	9,502,680	8,971,200	531,480	会員数1109名(見込み)
大会参加費	1,514,500	1,514,500	0	春991,000円、秋523500円
学会誌刊行助成金	0	0	0	
学会誌還元金	766,500	766,500	0	
雑収入	200,000	200,000	0	広告費, 利子収入を含む
当期収入合計	11,983,680	11,452,200	531,480	
繰入金	9,266,666	7,102,968	2,163,698	
収入合計	21,250,346	18,555,168	2,695,178	

【支出の部】

項目	2006年度予算額	参考:前年度予算額	対前年度増減額	備考
大会開催費	2,100,000	2,100,000	0	
春季大会	1,000,000	1,000,000	0	
秋季大会	1,000,000	1,000,000	0	
企画委員会活動費等	100,000	100,000	0	
旅費	600,000	600,000	0	
部会活動費	200,000	200,000	0	
学会誌発行費	3,480,000	3,480,000	0	
学会誌代金	3,300,000	3,300,000	0	
編集委員会活動費	180,000	180,000	0	
選挙関連費	0	300,000	△300,000	
学会賞関係費	300,000	300,000	0	
記念品代等	80,000	80,000	0	
審査員交通費等	220,000	220,000	0	
業績リスト作成費	200,000	200,000	0	
国際交流関連費	300,000	200,000	100,000	
学会ホームページ関連費	200,000	200,000	0	
名簿関連費	668,000	0	668,000	
名簿作成費	500,000	0	500,000	
名簿発送費	168,000	0	168,000	
内外諸学会分担金	50,000	100,000	△50,000	日本経済学会連合
本部経費	2,182,283	2,148,368	33,915	
幹事会費	40,000	40,000	0	
ニュースレター関連費	650,000	650,000	0	業績リストアンケート発送費含む
ニュースレター制作費	300,000	300,000	0	
ニュースレター発送費	350,000	350,000	0	

学会事務委託費	1,042,283	1,008,368	33,915
その他事務経費	450,000	450,000	0
学会活動推進基金	1,000,000	1,000,000	0
予備費	200,000	200,000	0
当期支出合計	11,480,283	11,028,368	451,915
繰越金	9,770,063	7,526,800	2,243,263
合計	21,250,346	18,555,168	2,695,178

5. 幹事会報告

社会政策学会幹事会議事録(第2回)

- (1) 名称: 社会政策学会2006-2008年期第2回幹事会
(2) 日時: 2006年8月5日(土)14:05-18:32
(3) 場所: 東京大学法文1号館217室
(4) 出席: 阿部、居神、遠藤、大前、小笠原、小越、小野塚、木本、猿田、武川、玉井、所、西村、松丸、室住
欠席: 岩田、埋橋、大沢、都留、富田、橋元、藤澤、宮本、森、湯澤

議題

1. 入会・退会の承認

11名の新入会員を承認した。また、会則第9条にもとづき、3年を超えて会費滞納の24名を退会したものとみなすことが決定された。

2. 第112回大会(2006年6月立教大学)総括

菅沼隆会員より提出された「第112回大会開催校報告」にもとづき、大会が2日間で416名の参加を得て成功裡に終了したことが確認され、代表幹事より遺漏なく大会運営を全うされた立教大学関係者諸氏に感謝の意が表明された。なお、同時に提出された「第112回大会会計報告」が承認され、約2万5千円(若干の費用未確定のため暫定額)の赤字は、総会での決定にもとづき、学会会計より補填することが決定された。

3. 秋季大会企画委員会報告

猿田正機幹事(秋季大会企画委員長)より、第113回大会(2006年10月大分大学)のプログラム編成作業について、2日目終了時刻は東京行き最終便に間に合うように16時15分とされている等の報告があり、プログラム案が承認された。なお、プログラムは9月上旬に発送の予定。

4. 春季大会企画委員会報告

遠藤公嗣幹事(春季大会企画委員長)より、第114回大会(2007年5月東京大学)の共通論題が「子育て」のキーワードのもとに企画が進められ、8月中には報告者等を含む原案に達する見込みであるとの報告がなされ、承認された。

5. 編集委員会報告

室住眞麻子幹事(編集副委員長)より、学会誌第16号『社会政策における福祉と就労』の内容と進捗状況について報告がなされた。また、秋季大会企画委員会副委員長に就任した居神浩会員に代わって関西部会の篠原健一会員(大阪商業大

学)に、在外研究に従事する金鎔基会員(小樽商科大学)に代わって北海道部会の笹谷春美会員(北海道教育大学)に、それぞれ秋季号編集委員を委嘱することが提案され、承認された。任期はいずれも前任者の残任期間(2008年春季大会まで)とする。

6. 国際交流委員会報告

埋橋孝文幹事(国際交流委員長)欠席のため、事前に提出されていた報告メモにもとづき審議された。

(1)2006-2008 年期の国際交流委員については、国際交流委員会規定第3条にもとづき、小川哲生会員(千葉大学)、河野真会員(兵庫大学)、高田一夫会員(一橋大学)、沈潔会員(浦和大学)、朴光駿(仏教大学)会員を指名したい旨の提案がなされ、承認された。

(2)韓国社会政策学会から、本年11月にソウルで開催される同学会大会での会議に対する共催と報告者の派遣の申し入れがあり、国際交流委員会としてもこれを受け入れたい旨の提案がなされ、承認された。また同学会から招請のあった武川代表幹事と朴光駿会員(佛教大学)以外の報告者の人選については国際交流委員会に一任することになった。国際交流委員会の予算の範囲内で旅費を支給することとなった。

(3)中国社会科学院社会政策研究中心の楊団氏との会談(2006年6月4日、楊団、武川、埋橋、沈)について報告され、今後さらに交流を続けつつ、社会政策学分野で日中間の協力関係を構築すべきことが確認された。

7. ニュースレター・ホームページ担当報告

所道彦幹事より、2006-2008年期最初のニュースレター(通巻第47号)は例年より若干遅れているが、8月下旬には発送予定である旨報告された。また、ホームページ予算の今年度の執行計画について、二村一夫会員の示唆をふまえて、『年報』第21集以降の学会記事のデジタル化、過去の大会時に撮影された記念写真のデジタル化等に支出するとの提案がなされ、承認された。

8. 旅費支給および会計手続きについて

小野塚知二幹事より、「旅費支給手続きに関する幹事会の申し合わせ」(2004年7月10日)にもとづき、委員会もしくは共通論題打ち合わせ等に出席した際の旅費は、関係する委員長がとりまとめて請求してほしいとの説明がなされた。また、各委員会・部会で立て替え支出した経費の請求について、請求方法を明確にしたいとの提案がなされ、承認された。経費請求書のほかに、旅費請求書および入会申込書の新書式が紹介され、いずれも承認された。

9. ニューズレターの発送方法について

武川代表幹事より、ニューズレターの発送手段を従来の郵送からメール便に変更したいとの提案がなされ、承認された。重量25gを超えるものも80円で送付できるため、年額でおおよそ¥33,900の節減になるとの見通しが示された。

10. 他学会との共催について

武川代表幹事より、保健医療福祉部会(座長:三重野卓会員)が秋のシンポジウムについて福祉社会学会との共催を検討している旨紹介され、承認された。

11. 名誉会員への学会誌贈呈について

伊藤セツ前監事より提案されていたこの件につき、さまざまな方法および事務負担・財政負担について検討したが、結論にいたらず、今回は見送ることとされた。

12. 大会開催費の赤字補填の方法について

小野塚幹事より、国立大学の法人化による会場借用料負担の導入や、開催校からの助成金の減額などの流れにともなって大会会計が赤字に陥る可能性は決して低くないこと、大会開催は学会全体の行事であるから開催校の大会会計に赤字が生じた場合は学会会計より補填すべきであることが指摘された。また、赤字補填の仕方について、(1)大会開催3ヶ月以上以前までに大会会計の収支見積を幹事会にお示しいただき、(2)明らかな赤字が予想される場合は幹事会の責任で支出削減を具体的に指示するとともに、(3)赤字額は事後的に学会会計より補填するとの大筋が提案され、承認された。大会会計収支見積のガイドライン等、具体的な方法は次回幹事会に提案され、承認されれば第114回大会より適用することとされた。

13. 学会誌のジャーナル化について

まず、小野塚幹事より「社会政策学会財政見直し」に関する報告がなされ、これまでの財政体質の推移、2006年度決算の見直し等をふまえて、ジャーナル化により学会誌還元金収入約八十万円が消滅するため、他の収支に変動がないと仮定するならば、三十万円ほどの赤字財政になるとの見通しが示され

た。続いて小笠原浩一幹事(編集委員長)より、前回幹事会決定をふまえて、「社会政策学会誌ジャーナル化のための実施案(原案)」が紹介された。

両報告および橋元秀一幹事(前編集委員長)がメールで寄せた意見などをもとに、新ジャーナルと春秋の大会の内容に大まかに対応した単行本との関係、刊行経費や入札のあり方、新ジャーナルへの切り替え時期、移行期の編集体制、掲載可能水準の論文数の見込み、新ジャーナルの編集体制、今後の進め方と手続き等について多面的に検討した結果、大略以下の諸点が確認された。

(1)2008年度当初より新ジャーナルに移行し、現行学会誌は2007年春季大会に対応する第19号(2007年度中刊行)で終了する方向で検討を進める。(2)春秋の大会に対応する単行本は何らかの仕方で引き続き刊行する方向を目指す。(3)2006年12月まで幹事会および編集委員会でジャーナル化の原案策定を進め、2007年1月幹事会での決定を経て、学会内のパブリック・コメントに付し、3月に締め切った後、コメントもふまえて4月以降の幹事会でジャーナル化案を決定し、2007年春季大会時の総会に提案する。

14. 秋季大会開催校報告

阿部誠幹事より第113回大会の日程(殊に終了時刻)、交通・宿泊、懇親会、昼食(両日とも一般参加者には生協食堂にて500円で定食を提供)、プログラムの発送・参加費の徴収等、保育所の紹介、収支予算案、大会実行委員会の体制について報告された。会場使用料は免除の方向を追求しており、免除となれば、会場清掃料を支出して百万円の予算枠内にほぼ収まる見通しが示された。

15. 学会賞のあり方について

学会賞のあり方について代表幹事より、奨励賞が高度になりすぎているのではないかとの問題意識が示され、奨励賞を若手向けにすること、学術賞と奨励賞の中間の賞の創設などについて、次回以降の幹事会で継続して検討することとされた。

16. その他

第3回幹事会は、2006年9月17日(日)午後2時から、東京大学で開催することとなった。

6. 承認された新入会員

氏名	所属名称	専門
8月5日承認分(12名)		
越田 明子	長野大学社会福祉学部社会福祉学科	社会保障・社会福祉
田中 文隆	みずほ情報総研株式会社社会経済コンサルティング部	労使関係・労働経済
池本 美和子	佛教大学社会福祉学部	社会保障・社会福祉
漆原 克文	川崎医療福祉大学医療福祉学部	社会保障・社会福祉
藤井 浩明	名古屋市立大学大学院経済学研究科院生	労使関係・労働経済
包 敏	広島国際大学医療福祉学部	社会保障・社会福祉
・ 少杰	同志社大学大学院社会学研究科院生	労使関係・労働経済
高橋 康二	東京大学大学院人文社会系研究科院生	労使関係・労働経済
遠藤 雄二	九州大学大学院経済学研究科院	ジェンダー・女性

村上 慎司	立命館大学大学院先端総合学術研究科院生	社会保障・社会福祉
白波瀬 佐和子	東京大学大学院人文社会系研究科	社会保障・社会福祉
王 國霖	高崎経済大学大学院経済経営研究科院生	労使関係・労働経済
9月17日承認分(5名)		
藤井 宏一	労働政策研究・研修機構雇用戦略部門	労使関係・労働経済
大河原 美穂	お茶の水女子大学大学院院生	労使関係・労働経済
三浦 辰哉	愛知新城大谷大学短期大学部介護福祉学科	社会保障・社会福祉
大利 功	神戸学院大学経済学研究科院生	社会保障・社会福祉
郭 暁宏	流通経済大学大学院経済学研究科院生	社会保障・社会福祉

7. 会則第9条による退会者

会則第9条による退会者

Ito Peng、佐賀 健二、曾 妙慧、立岡 浩、安藤 喜久雄、石川 両一、木下 秀雄、近藤 真吾、本間 信吾、牟 智煥、木村 英彦、岩本 真一、金谷 千慧子、中村 守、武城 正長、湯本 和子、相良 敬、尹 秀娟、崔 成龍、劉 麗、蔣 小青、伊藤 ゆき、マリナス ダヴィド、金 洪楹